

1. 工事概要

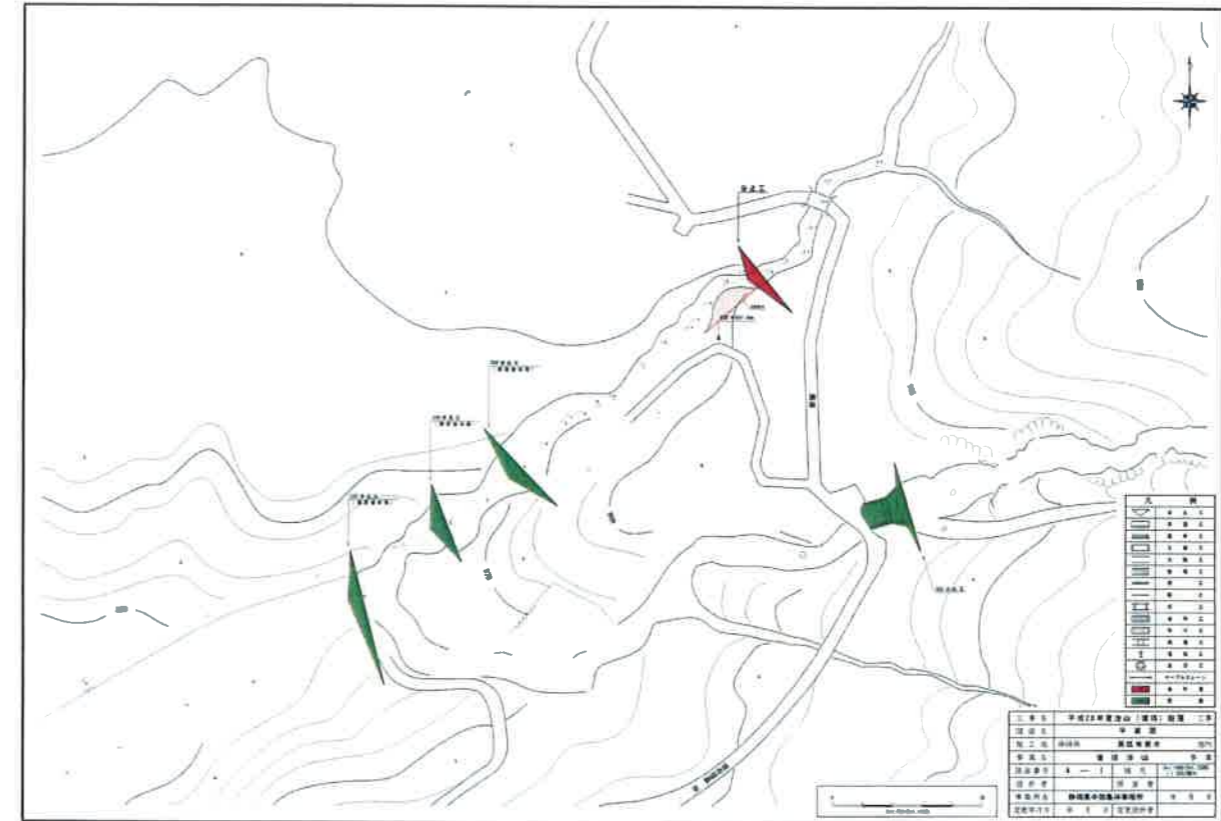
工 事 名 平成26年度 治山(復旧)船窪工事  
 発 注 者 静岡県中部農林事務所  
 工 事 場 所 静岡市葵区有東木  
 工 期 平成 27年 3月 31日 ~ 平成 27年 9月 25日  
 工 事 内 容 作業土工 1式  
 コンクリート谷止工 1式  
 間詰工 1式  
 流路整形 1式  
 仮設工 1式

工事の目的 本工事は溪流の浸食や崩壊を防止するとともに、下流への土砂流出を抑制することを目的に、静岡市葵区有東木の船窪地区において、谷止工1基を構築するものである。

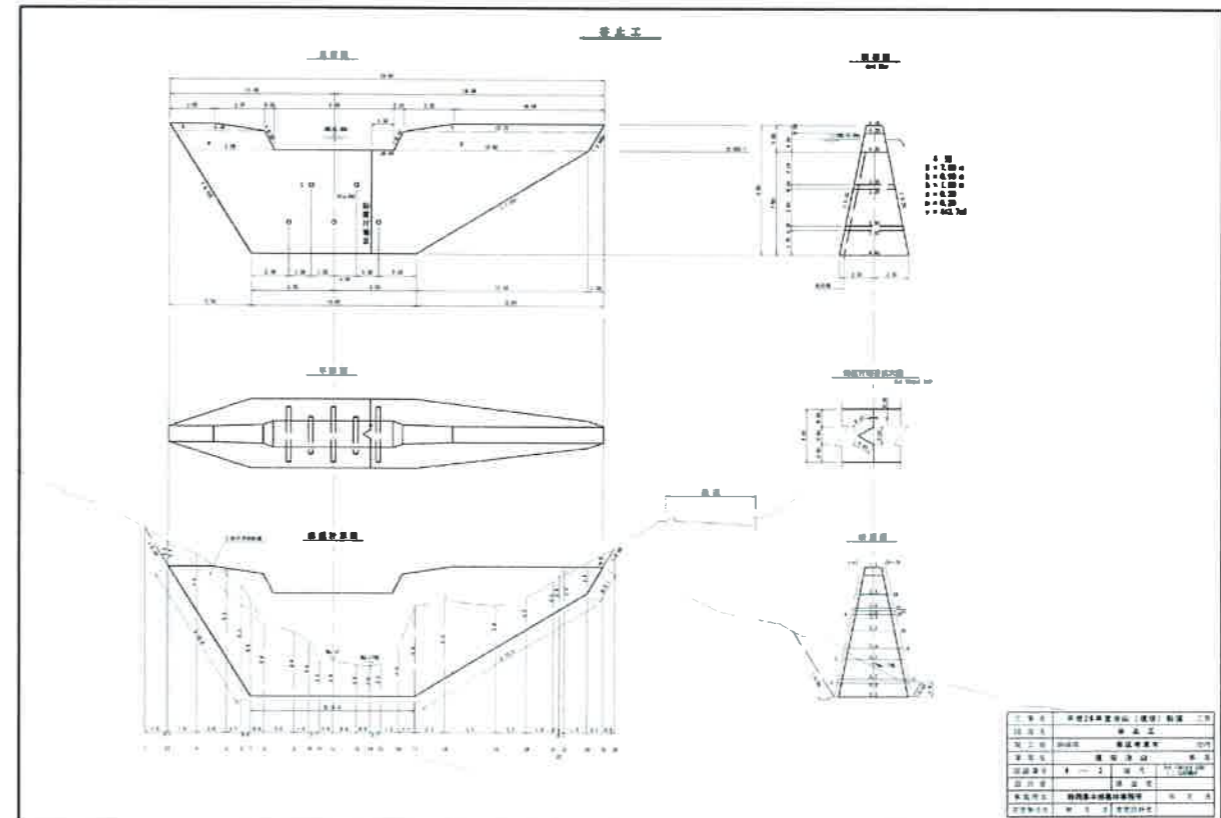
位 置 図



平面図



構造図



## 2. 工事の問題点

本工事の施工場所はワサビ発祥の地とされており、ワサビ栽培が盛んで現場周辺には多くのワサビ田が広がっていた。このワサビの栽培には、沢からの綺麗な水が重要とされており、本工事の沢からも多くのワサビ田が水を引いていた。また、ワサビのお店（食事処）があり、観光客が多い地区であった。

### 主な問題点

- 問題点① 現場下流部には多くのワサビ田があり、沢を濁らせられないため、水替工が重要となる。
- 問題点② 流路整形など、作業によってはどうしても濁りが発生してしまう時がある。
- 問題点③ 観光地であることから、工事車両の運転に気をつけるとともに、地域住民とのコミュニケーションが大切となる。



現場周辺及び下流部に広がるワサビ田



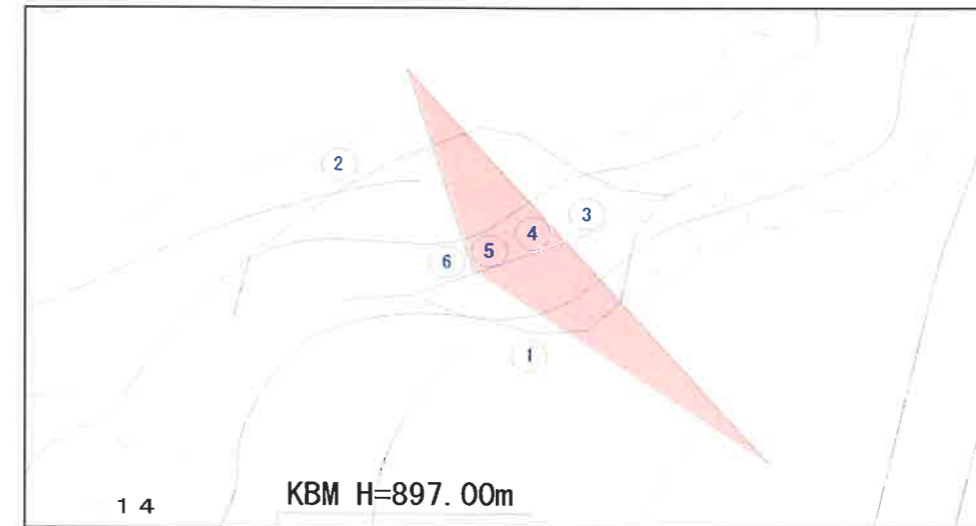
ワサビを販売しているお店

## 3. 問題点に対する対策・工夫

### ① 水替工について

ワサビ田の関係で濁りを出せないため、沢の切回しが必須である。工程に応じてこまめな水替の切回しを6回行った。普段の水量は少ないが、雨が降るとすぐに増水する沢だったため多めのホースを使用した。

- |       |   |       |       |   |         |
|-------|---|-------|-------|---|---------|
| 一次水替工 | → | 床掘開始時 | 四次水替工 | → | 谷止工施工時  |
| 二次水替工 | → | 掘削時   | 五次水替工 | → | 背面部埋戻し時 |
| 三次水替工 | → | 掘削時   | 六次水替工 | → | 水叩工施工時  |



水替工配置図



### 一次水替工

床掘は沢に支障のない左岸側から行い、河床高くらいまで掘削したところで左岸側へホースを設置し切替えた。そして右岸側の掘削を進めた。



### 二次水替工

右岸側の掘削が河床より下がったところで左岸側の掘削も進めたいため、左岸側に回してあったホースを右岸側へ移設し法面に吊るす形で設置した。



### 五次水替工

谷止工の施工が完了し背面部の埋戻しを行う際、ホースが支障となったため谷止工の上段の水抜管へホースを通し切回しを行った。



### 三次水替工

左岸、右岸ともに床掘の仕上げを行うため一時的にセンターへ切回し。床掘完了後は右岸側へ戻し、谷止工の施工を行った。



### 六次水替工

水叩工及び流路整形施工の際にホースが支障となったため切回しを行った。



### 四次水替工

谷止工の高さが上がり、右岸側へ設置していたホースが支障となったため谷止工の下段の水抜管へホースを通し切回しを行った。

## ② 沢の濁りについて

濁りを出さないように水替をこまめに行ったが、施工上どうしても濁りが出してしまう恐れがあったため、町内会長に相談をした。その結果、濁りが出る恐れがあるときは事前に連絡をし、町内放送をしてもらい周知をすることにした。これによりワサビ田の水の栓を閉めてもらい、濁った水がワサビ田に入らないようにした。また、ワサビ田をやっている住民の方とも直接連絡がとれるようにし、場合によっては自分たちが栓を閉めに行くことで対応した。

③ 地域とのコミュニケーションについて

有東木地区は道が狭い箇所が多く、観光客もたくさん来るとのことだったので、工事関係者には交通マナーの遵守、一般車優先で走行するように呼び掛けた。特に、生コン車に対してはより一層の注意をするように指導した。加えて、現場周辺及び県道梅ヶ島昭和線から有東木町内までの道路の除草・清掃を職員と作業員、全員参加で行い道路を快適にするとともに、地域とのコミュニケーションを深めた。また、有東木町内の観光看板が老朽化していたので、地域住民と相談をして新品を贈呈し、付替えを行った。



除草状況



老朽化した観光看板

付替え完了（管理者立会）



看板贈呈

付替え状況

4. おわりに

今回の工事は現場下流域にワサビ田が多くあり、沢の濁りに常に注意しながらの施工となったが、水替工の切回しをこまめにやったことで、濁りが出るのを最小限に抑えられたと思う。台風後などは自然に濁りが出たことはあったが、町内会長をはじめ地域住民とも密な連絡、調整ができたことで事前に周知、対応ができ苦情なく終えることができた。また、町内の除草や看板の贈呈などで地域住民との深いコミュニケーションがとれたと思う。今回のような環境の現場は他にもあると思うので、この経験を今後生かし、より良いものを作っていきたい。



着手前



完成